令和３（2021）年度
事業報告書

自　令和３年４月１日

至　令和４年３月31日

社会福祉法人
同和園

目次

１　総括　・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・3

２　サービス事業所事業報告　・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・5

（１）特別養護老人ホーム、ショートステイ　・・・・・・・・・・・・・・5
（２）養護老人ホーム　・・・・・・・・・・・・・・7
（３）同和園デイサービスセンター　・・・・・・・・・・・・・・8
（４）西野の家「はなさんち」通所介護事業所　・・・・・・・・・・・・・10
（５）日野の家「げんさんち」通所介護事業所　・・・・・・・・・・・・・11
（６）京都市百々老人デイサービスセンター　・・・・・・・・・・・・・12
（７）同和園ホームヘルプステーション　・・・・・・・・・・・・・13
（８）同和園訪問看護ステーション　・・・・・・・・・・・・・15
（９）同和園居宅介護支援事業所　・・・・・・・・・・・・・・・・・16
（10）百々居宅介護支援事業所　・・・・・・・・・・・・・・・・・17
（11）配食サービス　・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・18
（12）京都市醍醐北部地域包括支援センター　・・・・・・・・・・・・・・19

３　法人本部事業報告　・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・21

（１）総務課　・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・21
（２）人事課　・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・22
（３）国際人材育成支援室　・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・23
（４）経理課　・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・24
（５）コミュニティカフェ　・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・25

Ⅰ　総括

（1）新型コロナウイルス感染症対応状況

令和３年９月に同和園デイサービスセンターにおいて、ご利用者１名の感染が確認されたことで 14 日間休業しました。

また、令和４年１月及び２月に特別養護老人ホームにおいて、新型コロナウイルスの集団感染が発生し、合計ご入居者 40 名、職員 43 名が感染しました。令和４年１月休止していた特養壱番館２階２丁目南町のユニット 12 室の再開を予定していましたが、３月まで延期を余儀なくされ、ご入居者の入院が増加したことにより稼働率が低下しています。幸いにも重症化されたご入居者はおられず、収束させることができました。

短期入所事業においても、ご利用者の感染が１名ありましたが、集団感染となることは防ぐことができました。

新型コロナウイルス感染症対応策として、法人内の危機管理対策会議において定期的に協議し、職員について行動指針を策定し、ご利用者及び職員の感染が判明した際にはホームページ等で広報に努め、ご家族の面会制限等適宜行いました。

法人全体で新型コロナウイルス感染症による稼働率の低迷、入院者の増加により約 2000 万円の介護報酬の減額となり、電気・ガスを中心とする水道光熱費、給食材料費、介護用品費等の費用が増大しています。

（2）特養休止ユニットの再稼働の状況

特別養護老人ホームで休止しているユニットの再開では、令和３年６月に壱番館２階２丁目中町８名、令和４年３月に２丁目南町 12 名、合計 20 名分のユニットを再開させることができました。弐番館１階５丁目東町（12 名）のユニット再開は令和４年秋以降に延期しています。

（3）山科区百々拠点の指定管理運営の終了

京都市百々老人デイサービスセンターでは稼働率の低迷が続いており、平成 29 年度から６年間の指定管理の期限である令和４年度末をもって、指定管理を更新せず運営を終了することについて京都市と情報共有しています。

（4）職員寮の新築、ナースコール・電話主装置設備更新

壱番館西側に職員寮「百和寮」の新築、ナースコール設備と電話主装置の更新を進めました。令和３年度内の完成を予定していましたが、新型コロナウイルス感染症の影響による機器の納品遅れや、感染防止対応による工期見直し等により、職員寮は令和４年５月、ナースコール・電話主装置設備更新は、令和４年６月まで工期を延期しました。

（5）100 周年記念行事
令和３年 12 月 11 日（土）に 100 周年記念式典を予定していましたが、新型コロナウイルス感染症拡大を受け、令和４年 12 月 11 日（日）に延期し、また、100 年史の発行についても１年延期しています。

（6）法人の組織力強化
法人組織を見直し、体制を強化し、ガバナンス体制の充実を図りました。
また、コミュニケーション力向上のための研修を階層ごとに実施し、対話を促進するワンオンワン面談の実施に向け準備を進めました。

２　サービス事業所事業報告

（１）特別養護老人ホーム、短期入所事業所（ショートステイ）

①ご利用者支援

・多職種協働で毎朝、介護現場で申し送りの時間を設けたことにより、ご入居者の心身機能の低下や認知症の進行に応じ専門性を活かしたケアを提供することができた。
・ご入居者の状態変化などに対応したケアのアセスメントを適切に実施し、看取り期においては、最期までご入居者とご家族にとっての最善のケアに取り組んだ。
・新型コロナウイルス感染拡大の影響が続く中、「感染しない　感染させない」の基本を徹底したが、集団感染が発生し、ご入居者の生活に影響を及ぼした。
・在宅系事業所とも連携し短期事業所（ショートステイ）のご利用者にも良質のケアを提供するとともに、少しでも長く住み慣れた家で暮らし続けられるよう支援した。

②職員体制

・多職種がそれぞれの専門性を活かし相互に切磋琢磨することでやりがいや成長を感じ、仕事の充実感が持てる環境を構築するため、現行の研修体系を再編成した。
・職種の枠に捉われず、全職種参加し働き方の見直しを行うためのプロジェクトを立ち上げ、ICT 化（情報通信技術）の推進が図れた。
・感染症等に対する危機管理について専門的な知識を修得できるよう、職員に研修の機会を確保し取り組んだが、PPE（個人用防具）の装着手順などの全職員への浸透について課題が残った。

③地域支援

・施設の持つソフト・ハードの機能をフルに活かした活動を目指したが、新型コロナウイルス感染症の影響もあり、季節イベント時の園内開放や住民ボランティア活動場所の提供等実施できなかった。
・単身高齢者等への住居確保・生活支援である、京都市高齢者すまい・生活支援事業では、６名の高齢者に対し住居確保や生活支援をすることができた。

④経営管理目標

・特養において休止ユニットを再開し、平均稼働率 98%以上を目指していたが、新型コロナウイルス感染症の集団感染もあり 96.3%となり、短期入所事業においては平均稼働率 80%以上を目標としていたが 72.5%にとどまった。
・休止中の５丁目東町（１２名）ユニットの再開はできなかった。
・特養において、多職種協働により新たな加算（栄養強化マネジメント加算、個別機能訓練加算Ⅱ）を取得することができた。

＜ 特別養護老人ホーム ＞

①介護度の分布

	要介護１	要介護２	要介護３	要介護４	要介護５	合計	平均
令和３年３月末	1	0	96	106	68	271	3.85
令和４年３月末	1	0	100	114	68	283	3.87
対　比	1	0	4	8	0	12	△0.03

②退去者・新規入居者の介護度の分布（特別養護老人ホーム）

	要介護１	要介護２	要介護３	要介護４	要介護５	合計	平均
新　規	0	0	30	32	9	71	3.70
退　所	0	0	11	19	23	53	4.22
内､園内にて死亡（看取り加算）	0	0	8 (7)	15 (12)	16 (15)	39 (34)	4.20
内､園外にて死亡（看取り加算）	0	0	2 (0)	3 (0)	3 (0)	8 (0)	4.12
内､療養型等の病院へ転寮（退居）	0	0	1	1	4	6	4.50
内、在宅復帰	0	0	0	0	0	0	-

③稼働率・延べ人員（特別養護老人ホーム）

(定員 令和３年４月～272 名 令和３年６月～280 名 令和４年３月～292 名)

月	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	合計	平均
月末人数	272	272	280	280	280	280	280	280	280	280	280	292	3356	280
延人数	7975	8115	8135	8350	8431	8225	8384	8144	8516	8250	7609	8469	98603	8216
入所	2	4	11	7	4	6	6	3	6	5	3	14	71	5.9
退所	4	3	7	5	4	4	3	4	6	1	6	6	53	4.4
稼働率	97.7	96.2	96.8	96.1	97.1	97.9	96.0	96.9	98.1	95.0	94.6	93.5	-	96.6
定員 304 名稼働率	87.4	86.1	89.1	88.6	89.4	90.1	88.9	89.2	90.3	87.5	89.3	89.8	-	88.8

令和２年度延利用人数　94884 名

令和２年度平均稼働率（定員 272 名）95.6%

（定員 304 名）85.5%

＜ 短期入所事業所 ＞

事業実績　（定員 24 名）

月	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	合計	平均
実人員	57	48	55	57	56	57	57	55	59	52	41	48	642	53.5
延べ人数	570	571	569	580	548	562	544	507	532	463	408	470	6324	527
平均人数	19.0	18.4	19.0	18.7	17.7	18.7	17.5	16.9	17.2	14.9	14.6	15.2	17.3	－
稼働率	79.2	76.7	79.2	77.9	73.7	77.9	72.9	70.4	71.5	62.2	60.7	63.2	72.1	－

令和２年度平均延べ人数　6351 名

令和２年度平均稼働率　　72.5%

（２）養護老人ホーム

①ご利用者支援

・ご入居者に寄り添い、尊厳を守り人間関係を築きながら生活の支援をするため、ご入居者の心身機能の低下や認知症の進行に応じて福祉事務所とも連携し、適切なサービスの提供に努めた。

②職員体制

・ケアワーカー、生活相談員、ケアマネジャー等多職種の連携により、ご入居者の生活全般を見守るとともに、介護・相談スキルの向上に努めた。

・感染症拡大の影響が続く中、「感染しない　感染させない」の基本を徹底し、ご入居者の安全で安心な生活空間づくりに取り組んだ。

③地域支援

・特別養護老人ホームと一体的に取り組みを図ったが、新型コロナウイルス感染症の影響もあり、季節イベント時の園内開放や住民ボランティアの活動場所の提供等実施できなかった。

④経営管理目標

各福祉事務所との連携により 90 名の定員どおりの入居ができるよう取組んだ結果、年間平均入居率は 97%であった。

＜ 養護老人ホーム（特定施設入居者生活介護を含む）＞

①入居者の異動状況

定員	90
退所者	12
内、園内にて死亡	3
内、園外にて死亡	6
内、特養へ転寮	0
内、療養型へ転寮	3
内、在宅復帰	0
新規入居者	13
延べ人数	31,914

②月入所人数・延人数

月	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	合計	平均
入所人数	90	90	90	90	90	90	90	90	89	90	88	88	1075	89.6
延人数	2631	2728	2674	2645	2653	2620	2725	2623	2761	2723	2403	2728	31914	2660
平均利用人数	87.7	88.0	89.1	85.3	85.6	87.3	87.9	87.4	89.1	87.8	85.8	88.0	87.4	－

③月契約人数・延人数（特定施設入居者生活介護のみ）

月	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	合計	平均
契約人数	44	44	44	43	42	45	45	44	45	46	44	43	529	44.1
延人数	1283	1333	1297	1233	1257	1307	1337	1281	1392	1395	1201	1238	15554	1296
平均利用人数	42.8	43.0	43.2	39.8	40.5	43.6	43.1	42.7	44.9	45.0	42.9	39.9	42.6	－

（３）同和園デイサービスセンター

①ご利用者支援

・自立支援に基づく視点からご利用者自身が行動できるよう動線の工夫を行った。
・おやつの時間にはご利用者と同じテーブルにつき日頃の話を聞くことができた。
・ご利用者の自宅訪問などで知り得た情報を夕方の職員ミーティングを活用し共有できた。多職種で事例検討しよりよく活動できる方法を考えることの不十分さがあった。

②職員体制

・新型コロナウイルス感染症の影響による職員体制の不安定さがあり、業務シフトの見直しまで至らなかった。
・認知症介護実践者研修に参加することで、認知症加算を取得できた。
・職員の研修について事前にアンケートを募り希望の多かった認知症研修を法人内の講師を依頼し実施することができた。

③地域支援

・新型コロナウイルス感染症の影響のため中止となった活動が多くあり、地域ケア委員会にも参加できなかった。
・他事業所のデイサービスご利用者の緊急受け入れ要請などにスムーズに対応できた。
・法人のインスタグラムを活用し、デイサービスの活動内容を発信できた。

④経営管理目標

・令和３年９月にご利用者１名が新型コロナウイルスの陽性となられたことから、２週間休業したこと、ご利用者の自宅待機、ご利用者の利用自粛もあり、稼働率の低下に繋がった。
・介護報酬の改定に伴う新たな科学的介護推進体制加算（ＬＩＦＥ）の加算取得に取り組んだ。
・現在の 65 名の利用定員では職員の確保やご利用者の確保が難しくなっている。

事業実績　同和園デイサービス（定員 65 名）

月	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	合計
営業日数	26	26	26	27	26	26	26	26	25	24	24	27	309
最大利用可能人数	1690	1690	1690	1755	1690	1690	1690	1690	1625	1560	1560	1755	20085
延利用人数	1307	1343	1329	1456	1380	1002	1388	1435	1380	1257	1191	1290	15758
一月当たり実人員	171	171	178	182	176	176	185	185	180	176	169	169	2118
一日当たり利用人数	50	52	51	54	53	39	53	55	55	52	50	48	51
稼働率	77.3	79.5	78.6	83.0	81.7	59.3	82.1	84.9	84.9	80.6	76.3	73.5	78.5

※　合計欄のうち、一日当たり利用人数及び稼働率は年間平均

※　令和２年度平均稼働率　69.7%

（４）西野の家「はなさんち」通所介護事業所

①ご利用者支援

・ご利用者の快適な過ごしにつなげるために、適宜アセスメントを行った事で、課題への対応力を強化することが出来た。

・ご利用者の得意なこと、できる事を選別し活動への参加を促した。重度のご利用者にも活動の輪に加わって頂いた事から、体の動きや表情に変化を感じ取ることが出来た。

・ご家族や担当ケアマネジャーと密接に連携した事で、ご利用者の課題に対して対応する事が出来た。

・フロアの運営について、正確な状況把握、リスクマネジメントを行い、予防ケアに繋げていく事が課題となっている。

②職員体制

・認知症の基礎知識や事例検討など定期的な勉強会を維持継続して学んだことを実践し、ご利用者の QOL 向上に繋げていく基礎出来た。

・ICT の活用によりご利用者の今の状態を共有することが出来たが、提供するケアの均一化が課題となっている。

③地域支援

新型コロナウイルス感染拡大防止の観点から、他事業所と共に学ぶ機会については実施することが出来ず、運営推進会議については書面配布で開催した。

④経営管理目標

介護者の入院など環境変化による利用希望に対して臨時枠を提供した結果、昨年以上の年間平均稼働率 91％を達成することが出来た。

事業実績　（定員 12 名）（認知症対応型通所介護利用状況）

月	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	合計
営業日数	26	26	26	27	26	26	26	26	25	24	24	27	309
最大利用可能人数	312	312	312	324	312	312	312	312	300	288	288	324	3708
延利用人数	284	278	267	295	280	285	292	296	288	265	262	283	3375
一月当たり実人員	33	35	34	36	36	35	32	35	38	32	31	33	410
一日当たり利用人数	10.9	10.7	10.3	10.9	10.8	11.0	11.2	11.4	11.5	11.0	10.9	10.5	10.9
稼働率	91.0	89.1	85.6	91.1	89.7	91.4	93.6	94.9	96.0	92.0	91.0	87.4	91.0

※　合計欄のうち一日あたり利用人数及び稼働率は年間平均

※　令和２年度平均稼働率 90.2%

（5）日野の家「げんさんち」通所介護事業所

①ご利用者支援

・ご利用者の生活場面を知るためにご家族、ご利用者から情報を聞き取り、やりがいや役割を持って活動できるよう支援する事ができた。

・新型コロナウイルス感染症の感染拡大が継続する中、クラフト制作や文化レクの創作など活動の幅を広げ、ご利用者個々に合わせた居場所作りの個別対応を行った事で、ご利用者支援に生かすことができた。

②職員体制

認知症の勉強会を実施する事ができ、職員の意欲向上につながった。

③地域支援

・新型コロナウイルス感染症の影響により今年度も介護者懇談会の開催は中止となったが、自宅訪問を通じ、困りごとやデイサービスのニーズを聞く機会を継続して持つことができた。

・新型コロナウイルス感染症の影響で地域活動への参加はできなかったが、まちかどステーション「暮らしの保健室日野」を開催し、地域と関わることができた。

④経営管理目標

年間目標 90%の平均稼働率を上回る 90.6%を達成することができたが、ご利用者の急な体調面の変化などで90%を下回る月があった。

事業実績　（定員 25 名）

月	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	合計
営業日数	26	26	26	27	26	26	26	26	25	24	24	27	309
最大利用可能人数	650	650	650	675	650	650	650	650	625	600	600	675	7725
延利用人数	590	582	584	605	567	606	611	618	576	551	525	580	6995
一月当たり実人員	81	80	85	84	79	87	80	84	83	80	77	81	981
一日当たり利用人数	22.7	22.4	22.5	22.4	21.8	23.3	23.5	23.8	23.0	23.0	21.9	21.5	22.6
稼働率	90.8	89.5	89.8	89.6	87.2	93.2	94.0	95.1	92.2	91.8	87.5	85.9	90.6

※　合計欄のうち、一日当たり利用人数及び稼働率は年間平均

※　令和２年度平均稼働率　91．3%

（6）京都市百々老人デイサービスセンター

①ご利用者支援

・ご利用者の自己決定を大切にし、機能訓練計画にも反映し、また、科学的介護推進体制加算（ＬＩＦＥ）を取得し、ご利用者の情報収集を行った事で、ケアに活かすことができた。

・ご利用者の満足度調査の実施、他の居宅介護支援事業所との連携について課題が残っている。

②職員体制

・職員会議の場において、認知症やレクリエーションを通した生活機能向上、医療的知識についての研修を継続して行い、専門的知識を習得し、質の高いサービスの提供に繋げる事が出来た。

・法人内デイサービスセンターとの交流を図り、適切な対応ができるよう情報共有を行った。

③地域支援

地域や関係機関との交流、地域イベントへの参加や地域貢献の取り組み、ボランティアの受け入れなど予定していたが、新型コロナウイルス感染症の影響により活動ができなかった。

④経営管理目標

令和３年度の介護報酬改定で新たな加算取得を行うことができたが、ご利用者の増加や稼働率の向上には繋がらなかった。

事業実績　（定員 25 名）

月	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	合計
営業日数	26	26	26	27	26	26	26	26	25	24	24	27	309
最大利用可能人数	650	650	650	675	650	650	650	650	625	600	600	675	7725
延利用人数	473	419	447	421	400	397	435	454	431	401	388	377	5043
一月当たり実人員	58	54	55	54	49	47	56	57	56	53	52	53	644
一日当たり利用人数	18.2	16.1	17.2	15.6	15.4	15.3	16.7	17.5	17.2	16.7	16.2	14.0	16.3
稼働率	72.8	64.5	68.8	62.4	61.5	61.1	66.9	69.8	69.0	66.8	64.7	55.9	65.3

※　合計欄のうち、一日当たり利用人数及び稼働率は年間平均

※　令和２年度平均稼働率　73.9%

（7）同和園ホームヘルプステーション

（介護保険事業、日常生活総合支援事業）

①ご利用者支援

・訪問介護員として専門性の理解を深めるため定期研修を行い、ご利用者の身体状況・精神状況・生活環境を観察し、多職種との情報共有ができた。
・事業所内でご利用者のカンファレンスを実施し、アセスメントの強化を行い、ご利用者のできる力を職員間で共有するとともに、自立支援に繋がる身体介護を行う事ができた。
・ご利用者の自立に向け介護支援専門員と連携し、生活状況を報告し、提案した支援を実現することが出来た。
・ICT（情報通信技術）の活用を行い、業務の効率化や円滑な情報共有を図ることができた。

②職員体制

・定期研修の中で、事例検討を基に介護技術やコミュニケーション方法をチームで検討し、各訪問介護員が発言できる場を作ることができた。
・事業所内での認知症に対する研修や事例検討を行い、知識を深め支援に繋げることができた。
・新型コロナウイルス感染防止対策により、多職種からの研修を定期開催できなかった。
・他事業所で発生した新型コロナウイルス陽性者に対して適切な感染対策を行う中で、臨時支援に繋げることができ、その情報を事業所内で周知徹底できた。

③地域支援

障害支援サービスを行う人員の確保が難しく、サービス再開が困難となっている。

④経営管理目標

・同和園居宅介護支援事業所及び他の事業所の介護支援専門員との連携を密接に図り、緊急や臨時の支援依頼に応えることができた。
・年間の新規ご利用者数は 34 件で、既存のご利用者の増回にも対応できた。

事業実績　（介護保険法：訪問介護）

月	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	合計	平均
延べ人数	647	686	647	676	648	678	732	788	778	678	717	758	8433	702.8
実人員	78	79	76	75	75	75	80	79	79	74	78	78	926	77.2

※　令和２年度　月平均延べ人数　690.5 名

※　令和２年度　月平均実人員　　69.8 名

事業実績（総合支援事業：介護型ヘルプサービス、生活支援型サービス）

①介護型ヘルプサービス

月	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	合計	平均
延べ人数	85	75	82	82	90	85	99	107	91	104	116	129	1145	95.4
実人員	17	16	16	16	17	17	18	19	20	21	22	22	221	18.4

※令和２年度　月平均延べ人数　91.9 名

※令和２年度　月平均実人員　　17.4 名

②生活支援型サービス

月	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	合計	平均
延べ人数	73	70	66	71	66	59	54	62	47	40	44	51	703	58.6
実人員	15	13	14	13	14	12	13	13	12	11	12	12	154	12.8

※　令和２年度　月平均延べ人数　56.7 名

※　令和２年度　月平均実人員　　13.8 名

（井戸端ステーション　支え合い型サービス、地域貢献事業）

①支え合い型ヘルプサービス

支え合い型ヘルプサービス従事者養成講座は、法人内の開催を見送り、京都市主催の研修も中止となり、従事者の確保ができない状況となっている。

②地域貢献事業

・新型コロナウイルス感染拡大防止のため、計５か月間活動を休止した。

・令和４年２月より北醍醐まちかどステーションにおいて、地域との交流の場として地域住民を主体とした麻雀、カードゲーム、体操、食事会を行っているが、井戸端サロンの開催場所を旧京都市醍醐北部地域包括支援センター事務所から同和園内の養安荘に変更した。ご利用者が参加するにあたり同和園に入る坂を上ることが困難な方は、同和園デイサービスセンターの車により送迎を行った。

事業実績　（総合支援事業：支え合い型ヘルプサービス）

月	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	合計	平均
延べ人数	25	22	25	18	16	16	17	17	14	10	12	13	205	17.1
実人員	6	5	5	4	4	4	4	4	4	3	3	3	49	4.1

※　令和２年度　月平均延べ人数　27.2 名

※　令和２年度　月平均実人員　　6 名

（８）同和園訪問看護ステーション

①ご利用者支援

・ご利用者や介護者が、不安なく安心して過ごせるように、予測される病状の変化や心身の状況について、訪問時にわかりやすい言葉で繰り返しアドバイスし、不安が大きい時には適宜電話を入れるなど不安の緩和に努めた。
・終末期や緊急対応を必要とするご利用者及び介護者に対しては、24 時間電話対応し、必要に応じて夜間・休日も臨時に自宅訪問した。
・終末期のご利用者には、パンフレット「在宅で看取りをされる方へ」の冊子を使用し、最期に予測される症状や対処方法など、視覚的にも分かりやすく説明する事で、穏やかな看取りの過ごしを提供できた。

②職員体制

・ご利用者のニーズに沿ったテーマで毎月勉強会を実施した事で、適切な時期に適切なケアを提供し、課題解決へ繋げる事ができた。
・ケースカンファレンスを実施し、ステーション内での情報を共有、支援内容の再検討を行い、職員の考察力や対応力の向上に繋げることができた。
・Web 研修、「ACP」や「看取り（麻薬管理）」、「メンタルヘルスケア研修」等に参加し、視野を広げる事ができた。

③地域支援

・主治医やケアマネジャー、他事業所に対して、報告書・計画書などの書類は持参し顔の見える密接な関係を築くことができた。
・入院・入所時は看護サマリーを送り、ケアが途絶える事のないように連携強化し、退院時はカンファレンスに参加すると共に、チームで継続看護を意識し情報を共有する事で適切なケアが提供できた。

④経営管理目標

・精神訪問看護（医療保険）への移行事例は 4 件あり、医療保険での訪問に切り替える事で、時間に余裕をもって援助（傾聴）できるようになり、精神的ケアの質の向上に繋がった。
・サービス提供体制加算を算定する事ができた。
・月当たり平均ご利用者数は 59.9 人と前年度の 60.6 人を上回る事はできなかったが、医療保険算定の勉強会を実施し、法的根拠に基づく退院支援指導加算や退院時共同指導加算を取得する事ができた。
・カルテや記録方法の見直し、訪問予定の管理方法の変更等、業務の効率化を図ることが出来た。

事業実績

月	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	合計	平均
延べ利用人数	382	397	335	342	308	374	353	357	350	322	310	354	4184	348.7
一月当たり利用人員	60	68	63	62	58	62	60	57	58	59	56	56	719	59.9
一日当たり利用人数	14.6	13.2	12.7	12.2	11.7	14.4	13.0	13.7	12.8	11.9	12.9	13.1	-	13.0
定期巡回・随時対応型訪問介護看護件数	14	15	14	15	14	13	13	13	13	12	15	13	164	13.7
自宅での看取り件数	1	2	0	0	0	0	0	1	0	0	1	0	5	0.4

※　令和２年度　平均延べ利用人数　422.2 名

※　令和２年度　平均一月当たり利用人数 60.6 名

（９）同和園居宅介護支援事業所

①ご利用者支援

・ご利用者の生活に則したケアプランとなるよう、主任介護支援専門員による継続的なケアプランの確認と指導を行った。また、他事業所などで感染症が発生した際などはチャットツールを使用して適宜情報共有を行った。

②職員体制

・ＩＣＴ（情報通信技術）のより良い活用方法を協議した。

・定期ミーティングを活用し、認定更新の利用者情報について情報共有を行い、軽度者福祉用具貸与や医療サービス利用についてその都度確認したことで必要書類の漏れを防止することができた。

③地域支援

新型コロナウイルス感染症の影響で事業所内研修として予定していた、事例検討会を開催することができず、また、地域ケア委員会も、地域イベント全て中止となった。

④経営管理目標

ご利用者の受診に同席し、意識して主治医との情報共有を行い、新たな加算を取得する

ことができ、ご利用者のより良い支援に繋げることが出来た。

事業実績　同和園居宅介護支援事業所

月	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	合計	平均
給付管理件数	197	197	202	204	192	183	188	199	195	199	196	199	2351	195.9
受託件数	33	33	32	31	30	27	27	21	21	19	21	22	317	26.4
合計件数	230	230	234	235	222	210	215	220	216	218	217	221	2668	222.3

※令和２年度　月平均合計件数　　229.8 件

（10）百々居宅介護支援事業所

①ご利用者支援

・利用者の生活に則したケアプランとなるよう担当介護支援専門員に指導を行い、モニタリングについて事業所内で内容を協議した。

・危機管理対策について、緊急時連絡先等見直しを行いご利用者対応を行った。

②職員体制

・在宅ワーク中の朝礼等ミーティングや各種職能団体の会議や研修についてはタブレットを活用しリモートで参加出来るよう ICT の活用方法を共有した。

・認定更新の利用者情報については定期ミーティングを活用し情報共有を行い、軽度者福祉用具貸与や医療サービス利用についてその都度確認を行い、書類の漏れを防止することができた。

③地域支援

・山科連絡会居宅部会幹事会にリモートで参加したが、新型コロナウイルス感染拡大の影響もあり計画していた研修等はできなかった。

・地域ケア委員会においても新型コロナウイルス感染症拡大の影響で開催ができず、地域イベントについても全て中止となった。

④　経営管理目標

ご利用者の受診に同席し、主治医と情報共有を行うことで、加算取得と共にご利用者の支援に繋げることができた。

事業実績　百々居宅介護支援事業所

月	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	合計	平均
給付管理件数	155	159	158	157	156	148	146	160	150	157	150	138	1834	152.8
受託件数	13	13	14	14	14	12	12	21	27	20	20	20	200	16.7
合計件数	168	172	172	171	170	160	158	181	177	177	170	158	2034	169.5

※令和２年度　月平均合計件数　187.2 件

（11）配食サービス

①配食数の推移

前年度に比べて、配食数は平均約 160 食減少、平均実人員数も約７名の減少となっている。時間的な制約があり、また、夏場のクーラーボックス使用時に車の積載量に限りがあることから、自然減による調整を行った。

②献立の内容

献立内容や味付け、硬さ等を確認し、特に、特別食（粥・刻み等）を利用されている方への配食ミスがないように、随時、栄養士や担当相談員と話し合い、効率よく担当者に周知できる方法を実践した。

③安否確認機能

ご利用者への配食を手渡しで行い、安否確認機能も継続し、訪問時に不在や転倒等の事態が発生していた際は、ご家族や担当ケアマネジャーへの確認や連絡を行い、必要時には救護を行った。

事業実績（配食数）

月	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	合計	平均
配食数	418	425	402	412	378	398	405	391	358	358	301	308	4554	379.5
実人員	29	27	28	28	24	24	25	25	23	21	19	19	292	24.3

※令和２年度　平均配食数　544.3 食　　平均実人員　31.2 人

（12）京都市醍醐北部地域包括支援センター

①ご利用者支援

・在宅医療・介護連携支援センターとの合同会議に出席し、医療職との連携力が高まるよう意見交換を定期的に行った。
・消費者被害や権利擁護に関する 90 件以上の相談を受け、そのうち、３件について成年後見申し立てに至った。
・年度合計で約４０００件、月平均約 340 件の相談対応を行った。
・新型コロナウイルス感染予防対策として、交代勤務制を敷き、来所相談において分担して対応することが出来た。
・一般介護予防事業のケアプランへの位置づけを積極的に行い、ケアマネジメントを実施した。

②職員体制

・権利擁護、諸制度理解、地域診断等各職種ごとに他事業所と協同で研修会を企画したが、変則勤務制を敷いた影響もあり、計画通りには開催できなかった。

③地域支援

・日常生活圏域ごとの地域ケア会議は見送ったが、年度終盤には地域の活動も再開しており学区民生児童委員協議会との合同会議へも参加した。

個別ケース地域ケア会議　４回
学区地域ケア会議　　６回

・住民主体の介護予防事業を介護予防推進センターと協働で、側面的に支援することができた。新たに活動を始める地域もあり、必要な助言を行った。

折戸公園・中山公園・上ノ山公園・醍醐寺　→継続開催を支援。
京道公園・大高公園　→自主的開催の見守り。
池田東学区　→　開催について助言。

・介護予防 Zoom 教室を地域住民向けに月１回開催した。
・学区民生児童委員協議会と会議を通じて意見交換を行った。

北醍醐	醍醐	醍醐西	池田	池田東
12	0	1	0	3

・地域の金融機関等に対して認知症サポーター養成講座を開催した。

認知症サポーター養成講座受講者：３７３名
認知症サポーター養成講座開催回数：８回

・カフェ de おれんじサロンに参画し、初期認知症当事者支援を行った。
・災害時の対応マニュアルの策定は継続課題となった。

④経営管理目標

職員の退職により、給付管理ケースを一部、居宅介護支援事業所に委託することで、担当件数上限超過による委託料返還を回避できた。

令和３年度事業実績

●総合相談支援

月	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	合計	平均
件数	346	332	351	342	322	350	347	344	343	331	318	325	4051	337.6

※令和２年度平均件数：449 件

●介護予防支援・介護予防ケアマネジメントＡ給付管理件数

月	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	合計	平均
件数	383	377	380	376	383	388	384	377	388	386	391	393	4606	383.8
うち委託	88	86	94	93	106	108	112	107	109	107	111	115	1236	103.0

※令和２年度平均件数：385 件（うち委託 94 件）

※ケアマネジメントＣ　９件

●１人暮らし高齢者全戸訪問事業

月	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	合計	平均
訪問件数	0	15	27	26	24	25	37	41	22	22	18	20	277	23.1
同意書取得数	2	0	0	1	0	0	1	1	1	0	0	1	6	－

※令和２年度訪問件数　299 件　同意書取得数　５件

●虐待相談件数

月	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	合計	平均
相談件数	1	1	8	9	3	3	11	8	14	10	8	1	77	6.4

※令和２年度 49 件

●ケアマネ支援件数

月	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	合計	平均
相談件数	3	1	1	3	2	17	8	3	0	2	4	6	50	4.2

※令和２年度相談件数　26 件

３　法人本部事業報告

・特養の介護職員を中心に人材確保活動を継続するとともに、法人独自の奨学金制度を活用し４名の外国人留学生等の進学を支援した。
・法人の経営助言のためコンサルティングを導入し、安定した事業運営ができるよう財務基盤の立て直しを目標として取り組んだ。
・特養において休止している３つのユニットのうち２ユニットの再開することが出来た。
・令和３年９月に同和園デイサービスセンターにおいて新型コロナウイルス感染症により一時休止、令和４年１月から２月にかけて特養で新型コロナウイルス集団感染が発生し、入院者の増加等により当初見込んだ介護報酬が得られなかった。
・新たな加算（栄養マネジメント強化加算・個別機能訓練加算Ⅱ）を算定ができるようになった。
・100 周年記念式典を令和３年 12 月 11 日（土）に予定していたが、新型コロナウイルス感染予防のため、100 年史発行とともに令和４年度へ１年間延期している。

（１）総務課

①建物・設備管理
・建物・設備の老朽化に伴う設備更新を実施した。
〇ナースコール設備及び電話主装置更新
特別養護老人ホーム及び養護老人ホームのナースコール設備及び施設全体の電話主装置の更新については部品調達遅延のため、令和４年度当初に実施している。
〇浴室リフトの更新
特別養護老人ホーム及び養護老人ホーム、短期入所事業所、同和園デイサービスセンターの浴室リフトの更新を実施した。
〇空調設備更新
弐番館の空調設備である HRC１号機について、機密系統及び冷却塔の修理を実施した。

②職員寮の新設
京都市の宿舎整備補助金を活用し、壱番館西側空地に職員寮（百和寮）12 室を新設し、令和４年５月に竣工している。

③施設の保守管理・修繕、水道光熱費等の削減
・必要な保守管理、修繕に対して業者の相見積もりをとるなど、常にコスト削減を意識して実施した。
・水道光熱費、需用費等経費削減に努めたが、原油価格の高騰等により給食食材料、介護用品・日用品をはじめ仕入れコストが増加し、電力、ガスの費用も大幅に増加している。

④災害対応

新型コロナウイルス感染予防対策を講ずる中で、夜間想定も含めて２回の火災避難訓練を実施した。

⑤広報活動

法人の取組みを広く周知できるように、ホームページ、広報誌などで広く周知するとともに、同和園後援会、応援団の活動等についても掲載した。

（２）人事課

①人材確保

・令和３年度の職員採用は新型コロナウイルス感染予防対策を行い、対面での就職フェアや福祉施設説明会に参加した。新規採用者は 17 名、中途採用者 23 名の常勤職員を採用することができた。
・インターンシップについて、オンライン及び施設内で実施し、介護の仕事の魅力が充分伝わるよう創意工夫し実施した。
・ミャンマーからの技能実習生の受入れが、国内でのクーデター、新型コロナウイルス感染状況の影響から１年以上遅れることとなり、日本への入国は令和４年６月、同和園への配属は令和４年７月になる予定である。
・同和園の奨学金制度を活用し外国人留学生４名が介護福祉士養成校に進学している。

②人材育成

・技能実習生の介護技能評価制度に対応するためキャリア段位制度のアセッサーを養成し、教育体制の充実を図った。
・中途採用者や外国人技能実習生に対して新規学卒者と相違ない研修を定期的に開催することができた。
・介護福祉士受験対策講座を開催し、６名中５名が合格することができた。

③労務管理

・時間外勤務等の管理が適正に行われるよう管理職と情報の共有を図った。
・働き方改革の一環である同一労働同一賃金について、パート・アルバイト職員就業規則、再雇用職員就業規則の見直しを行った。
・子育てをしながら継続して働き続けられるよう、男性職員に対しても育児休業を取得できる制度のあること等、子育て支援制度の周知徹底を図った。
・勤務時間・公休日数の在り方について検討し、１日８時間勤務とすることで公休日を８日から９日への拡充を図った。

④人事考課

組織変更等を踏まえ、新たな人事考課制度の再構築を継続協議している。

（３）国際人材育成支援室

①外国人介護職員採用状況（令和４年４月１日現在）

【全体：15名】

	中国	ﾌｨﾘﾋﾟﾝ	ﾍﾞﾄﾅﾑ	ﾐｬﾝﾏｰ	ｲﾝﾄﾞﾈｼｱ	計
在留資格「介護」		１名	１名			２名
特定技能　介護		１名		１名		２名
技能実習生	５名					５名
介護留学奨学金貸与生	１名			２名	１名	４名
その他留学生ｱﾙﾊﾞｲﾄ				２名		２名
計	６名	２名	１名	５名	１名	15名
技能実習候補生				８名		

②外国人介護人材確保育成支援

〇技能実習生

・令和２年２月より中国から５名（男性２名、女性３名）受け入れている、５名全員が１号実習評価試験に合格し令和３年１月より２号実習がスタートしている。

・令和３年４月以降、５名全員が夜勤業務を含むすべての勤務シフトに入ることができた。その内１名は負傷により労災で休職したが復帰し業務軽減となっており、約半年遅れで実習を行った。

・令和４年度が３年目の最終年度となるため、最終評価試験対策と終了後の進路について支援していくこととなる。

〇ミャンマーからの技能実習生受入れ予定

・第１期生として４名、２期生として４名、合計８名が令和３年度に配属予定であったが、令和２年４月以降の新型コロナウイルス感染症及び令和３年２月に発生したクーデターの影響によりミャンマー国内での活動が停止状態にあり、１年以上入国が遅れていたが、令和４年７月には配属される予定である。

・８名全員が日本語能力検定試験N3レベルに合格している。

③在留資格介護・特定技能介護

〇在留資格介護２名（フィリピン１名、ベトナム１名）を受け入れている。

・フィリピン人１名は、日本でのEPA（経済連携協定）を経て介護福祉士国家試験に合格した者、ベトナム人１名は、当法人の奨学金制度を活用し養成校を卒業し在留資格介護で採用している。

〇特定技能介護：２名（フィリピン１名、ミャンマー１名）を受け入れている。

・フィリピン人１名は、日本での EPA（経済連携協定）を経て特定技能介護の資格を取得し採用し、ミャンマー人１名は、他産業種での技能実習３年を終了後、特定技能介護の資格を取得し、採用している。

④介護留学奨学金貸与生

・令和３年度において介護福祉士養成学校へ入学する介護留学生に対する奨学金を、外国人４名（ミャンマー２名、インドネシア１名、中国１名）に貸与している。
・令和３年度で卒業した介護留学生奨学金貸与生のうち韓国人留学生１名は本人の希望で別の事業所で就職が決まり、ベトナム人留学生１名は、当園の採用試験で基準に達せず不合格となり採用に至らなかった。この２人は京都府の修学支援金制度を利用しており、引き続き当法人が保証人になっているため、今後の奨学金制度の在り方について継続課題となった。

⑤その他の外国人職員

新型コロナウイルス禍の中、日本語学校留学生がアルバイト先の状況により継続勤務することが困難等の理由により、当園において現在２名（ミャンマー人２名）がアルバイトとして勤務している。

（４）経理課

①財務管理

・正確な会計処理と予算実績管理を行い、安定した資金繰りと正確な会計処理を行った。
・各事業における進捗状況を予算実績対比し、収支状況分析を適宜行った。
・特養の３つの休止ユニットのうち２つのユニットを再開することができ、収支改善に繋がった。
・水道光熱費が高騰する中、費用の抑制に努めた。
・監事会による監査、会計監査人による監査を受けることができ、会計処理に対して更に透明性の確保を図ることが出来た。

②施設整備について

・施設整備や資産の更新について、厳しい収支状況を踏まえ、優先順位を付けて施設設備を更新した。
・弐番館空調設備（HRC１号機）の修理及び入浴リフト機器の更新を実施した。

（５）コミュニティカフェ

コミュニティカフェ倶会一処及びコミュニティカフェ工房ひのぼっこにおいては、新型コロナウイルス感染症による法人内の地域ケア委員会での活動及び地域におけるイベントがすべて中止の影響を受け、集団利用による収入の大幅減は継続している。

〈 コミュニティカフェ「倶会一処」 〉

月別売上 **（単位：千円）**

月	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	合計	平均
売上計	1391	1438	1419	1685	1449	1299	1685	1432	1664	1178	1247	1761	17648	1471

令和２年度実績売上　16,488 千円

〈 コミュニティカフェ工房　ひのぼっこ 〉

月別売上 **（単位：千円）**

月	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	合計	平均
デイ委託	449	452	454	468	495	472	474	468	446	430	409	452	5469	456
カフェ	150	143	161	192	137	121	226	179	233	134	164	291	2131	178
合計	599	595	615	660	632	593	700	647	679	564	573	743	7600	634

令和２年度デイ委託売上　5,548 千円

令和２年度カフェ売上　　1,881 千円

以上